

事例研究報告

中学部知的障がいの生徒の安全な 食事を目指した取組について

児童・生徒の実態

【食形態】

普通食

【食事の様子(家庭)】

勢いよく口に入れ、よく噛まずに飲み込む。
喉に詰まりそうなことが月2回程度ある。

【食事の様子(学校給食)】

食事の速度が速い。
口を開けたまま咀嚼している。

保護者の願い

- ・安全に食事ができるようになってほしい。

教員の願い

- ・家庭や学校での食事場面において、安全に食べてほしい。
- ・安全に食事ができるようになるために何か有効な支援・指導方法を知りたい。

助言前の取組

- 小皿を使用し、3回程度に分けて給食を提供
- 小皿で食べ終えた後にインターバル(休憩3分)の実施

【指導の流れ】

小皿→休憩3分→小皿→休憩3分→小皿

アドバイザーからの助言

第1回コンサルテーション
令和7年9月18日

- 適切な一口量で食べることができる。
- 咀嚼時に口を開けているが、上手に食事は食べることができる。
- 現状の食べ方であれば小分けにせずに学校給食を通常通り提供しても問題はない。
- 実際に咽せているときの様子や原因食材について、情報が必要である。
- 食後のスケジュールを明示する。
- 喉に詰まった、詰まりそうになったときの様子を保護者に動画撮影してもらう。

助言を受けての見直し

①学校給食を小皿に分けずに通常通り提供する

食事の速度が速いため、給食が短時間で終わることが予想できる



スケジュールを調整し、学校給食後も
落ち着いて過ごすことができるようにする

表

	すること	ついかいへんこう
	荷物	
	検温(°C)	
	連絡帳	
	着替え	
	日生(体力作り)	
	2時間目	
	課題()	
	3時間目	
	課題()	
	4時間目	
	スケジュール表置れ替える	

裏

	お手伝い()	
	手洗い・うがい	
	給食	
	歯磨き	
	トイレ	
	お手伝い()	
	運動()	
	5時間目	
	課題()	
	6時間目	
	検温(°C)	
	帰りの準備(カバン、連絡帳、手紙、宿題もらう)	
	お手伝い()	
	着替え	
	忘れ物チェック	
	帰りの会	
	むかえ()	

助言を受けての見直し

- ②情報収集のため、家庭での食事の様子について動画の撮影を依頼する。
- ③原因食材があるのか探るため、記録表を作成する。

食事記録表		記入者（	
月日	令和	年	月 日
料理名			
使用している具材 (野菜や肉などをご記入ください)			
吐出の有無 (自ら吐き出せたか、何を吐き出したか)			
その他			

保護者・家庭との連携

- ・助言内容について情報共有
- ・家庭での食事の様子動画撮影を依頼
- ・記録表を作成し、学校・家庭ともに咽せたり、詰まりかけたりしたときの料理名や具材の記録

指導の経過

- 学校給食の通常提供を始めたが、咽せたり詰まったりすることなく、食べることができる。
- 家庭の食事でも詰まることなく、食べることができる。
- 学校給食後もスケジュールに沿って落ち着いて学校生活を送ることができる。

- ・食事に専念して食べることができるため、現状の食形態、提供方法で問題ない。
- ・「捕食→噛む→飲み込む」の一連の流れがスムーズにできている。
- ・ペースは速いが、自分なりに一口大などを考えながら食べることができるので、詰まったり咽せたりすることがないように一定のリスク回避ができている。
- ・動画撮影を依頼したことで、本生徒が保護者が思うほど詰まりそうにはなっていないことが理解できたのではないかな。

指導の成果

- 学校給食の通常提供を始めたが、安全に食べることができた。
- 学校給食後もスケジュールに沿って落ち着いて学校生活を送ることができた。
- 自分なりに一口大などを考え、詰まらないように食べようとしていることが分かった。
- 動画撮影を依頼したことで保護者が本生徒の実態を正確に把握でき、そのことで訴えの軽減につながった。

ここが成功のポイント

- 専門家の助言を受けることで、保護者及び教員ともに安心して実践に取り組むことができた。
- 専門家の助言をもとに、家庭と連携を図ることで、より保護者の安心感を獲得することができた。
- コンサルテーションを通じて、教員の専門性の向上につながった。
- 本生徒の実態を保護者にも正確に把握してもらえるように働きかけた。